試　験　対　策

1　傾向と解き方

（１）出題傾向

最近の全商簿記３級では、大問が５つ出題されています。

第１問が「**仕訳問題**」で８つの仕訳が問われています。仕訳問題では、勘定科目が与えられますので、その中から適当な勘定科目を使用し、仕訳を解答します。

第２問は「**伝票の記入問題**」が出題されています。２つの取引が与えられ、入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、適当な伝票への記入を行います。

第３問は「**帳簿の記入問題**」が出題されています。仕訳帳や特定の勘定への記入、補助記入帳（売上帳や仕入帳等）や補助元帳（売掛金元帳や買掛金元帳等）の記入が求められます。

第４問は「**勘定分析**」、「**帳簿の空欄推定（帳簿の読取）**」、「**語句選択**」等、小問が３つ出題されます。「勘定分析」は与えられた情報をもとに、問われている金額を推定する問題で、パズル的な問題です。「帳簿の空欄推定（帳簿の読取）」は与えられた帳簿から必要な情報を読み取り、解答する問題です。「語句選択」は文章が与えられ、文章中の空欄にあてはまる語句を語群の中から選択する問題です。

第５問は「**総合問題**」で、精算表作成問題か、損益計算書または貸借対照表作成問題が出題されます。また、関連して、決算整理仕訳や特定の勘定への記入が問われもします。

（2）解き方

合格するためには１時間30分という限られた時間の中で、70点以上の得点を獲得する必要があります。そこで大事なことは「**簡単な問題（得点しやすい問題）から解く**」ことです。第１問から順番に解く必要はありませんので、難しい問題や苦手な論点は後回しにしましょう。

第３問の「帳簿の記入問題」は一番時間がかかりますので、最後に解くとよいでしょう。また、第４問の「勘定分析」と「帳簿の空欄推定（帳簿の読取）」も時間がかかることが多いので、後回しにした方がよいでしょう。

そこで、以下の順番で解くことをおすすめします。

第１問　→　第２問　→　第５問　→　第４問　→　第３問

公益財団法人全国商業高等学校協会のホームページに、全商簿記３級の過去問が公表されていますので、是非、最近の過去問を上記の順番で解いて下さい。

2　仕訳問題

　最近の全商簿記３級の第１問は、仕訳形式の問題が８問出題されています。勘定科目の候補が与えられますので、その中から適切な勘定科目を選び、仕訳を解答します。与えられた勘定科目以外で解答した場合は、正解となりませんので注意して下さい。
　ここでは、よく出題されている問題を論点ごとに復習していきます。

（１）現金預金

①　現金過不足

試験対策問題２－１　**現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より1,000円多かった。よって、帳簿残高を修正して、その原因を調査することにした。**

　帳簿の金額を実際有高に合わせるために「現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、現金過不足の原因が不明な場合は、その原因が判明するまで「現金過不足」勘定として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**1,000**	**現　金　過　不　足**	**1,000**

試験対策問題２－２　**現金の実際有高が帳簿残高より1,000円多かったので、帳簿残高を修正してその原因を調査していたところ、本日、受取利息1,000円の記帳もれであることが判明した。**

　帳簿の金額と実際有高が異なっていたことが判明した時に「現金過不足」勘定で処理していましたので、原因が判明した時には適切な勘定へ振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　金　過　不　足	**1,000**	**受　取　利　息**	**1,000**

② 当座借越

試験対策問題２－３　買掛金15,000円を小切手を振り出して支払った。ただし、当座預金勘定の残高は10,000円であり、限度額を80,000円とする当座借越契約を結んでいる。

小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。ただし、当座預金残高を小切手振出金額が上回った場合、当座借越限度額内であれば、その上回った金額を「当座借越」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**15,000**	**当座預金**	**10,000**
		当座借越	**5,000**

当座借越：15,000－10,000＝5,000

試験対策問題２－４　得意先から売掛金7,000円を得意先振り出しの小切手で受け取り、直ちに当座預金へ預け入れた。ただし、当座借越勘定の残高が500円あった。

小切手を受け取り、直ちに、当座預金に預け入れた場合、「現金」勘定（資産）でなく、「当座預金」勘定（資産）で処理します。

ただし、「当座借越」勘定（負債）に残高がある場合で当座預金に入金があった場合、まず、「当座借越」勘定（負債）を減少させ、次に、残額を「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座借越	**500**	**売掛金**	**7,000**
当座預金	**6,500**		

当座預金：7,000－500＝6,500

③　小口現金

試験対策問題２－５　**定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を採用することとし、小口現金として小切手6,000円を振り出して庶務係に渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
小口現金	**6,000**	**当座預金**	**6,000**

試験対策問題２－６　**定額資金前渡制度を採用している千葉商店の会計係は、庶務係に小口現金として20,000円を前渡ししていたが、本日、当月分の支払高について、次のとおり報告を受けたので、直ちに小切手を振り出して補給した。**

交通費3,000円　　消耗品費2,000円　　雑費1,000円

直ちに小切手を振り出して小口現金の補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の減少及び増加の処理をしないで、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
交通費	**3,000**	**当座預金**	**6,000**
消耗品費	**2,000**		
雑費	**1,000**		

④　その他の預金

試験対策問題２－７　**銀行に普通預金として現金3,000円を預け入れた。**

「普通預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
普通預金	**3,000**	**現金**	**3,000**

試験対策問題２－８　**小切手4,000円を振り出して、定期預金とした。**

「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
定期預金	**4,000**	**当座預金**	**4,000**

（２）商品売買

①　前払金・前受金

試験対策問題２－９　**得意先に商品1,200円を売り上げ、代金はさきに受け取っていた内金1,000円を差し引き、残額は掛けとした。**

売上代金の内金は受け取った時に「前受金」勘定（負債）で処理していますので、それを減少させます。また、残額は「売掛金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
前受金	**1,000**	**売上**	**1,200**
売掛金	**200**		

試験対策問題２－10　**仕入先から商品8,000円を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金2,000円を差し引き、残額は掛けとした。**

仕入代金の内金は支払った時に「前払金」勘定（資産）で処理していますので、それを減少させます。また、残額は「買掛金」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
仕入	**8,000**	**前払金**	**2,000**
		買掛金	**6,000**

②　商品券

試験対策問題２－11　**商品券1,000円を発行し、代金は現金で受け取った。**

商品券を発行した場合、「商品券」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現金	**1,000**	**商品券**	**1,000**

試験対策問題２－12　**商品1,200円を売り上げ、代金のうち1,000円は現金で受け取り、残額は当店発行の商品券で受け取った。**

当店が発行した商品券を受け取った場合、「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現金	**1,000**	**売上**	**1,200**
商品券	**200**		

（３）手形

試験対策問題２－13　仕入先に対する買掛金の支払いとして、さきに得意先から商品代金として受け取っていた約束手形20,000円を裏書譲渡した。

保有する手形を裏書譲渡した場合、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**20,000**	**受取手形**	**20,000**

試験対策問題２－14　以前に売上代金として受け取った約束手形20,000円を銀行で割り引き、割引料120円を差し引かれた手取り金は当座預金とした。

手形の割引によって保有していた手形が減少しますので、「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。また、割引料は「手形売却損」勘定（費用）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**19,880**	**受取手形**	**20,000**
手形売却損	**120**		

当座預金：20,000－120＝19,880

（４）有価証券

試験対策問題２－15　売買目的で大阪物産株式会社の株式30株を１株につき50円で買い入れ、代金は買入手数料100円とともに小切手を振り出して支払った。

買入手数料は有価証券の購入に関する付随費用ですので、有価証券の取得原価に含めるために「有価証券」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券	**1,600**	**当座預金**	**1,600**

有価証券：@50×30株＋買入手数料100＝1,600

試験対策問題２－16　**売買目的で愛知株式会社の額面20,000円の社債を額面100円につき97円で買い入れ、買入手数料50円とともに小切手を振り出して支払った。**

買入手数料は有価証券の購入に関する付随費用ですので、有価証券の取得原価に含めるために「有価証券」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
有価証券	**19,450**	**当座預金**	**19,450**

有価証券：額面総額20,000÷@額面100＝200口
@97×200口＋買入手数料50＝19,450

試験対策問題２－17　**売買目的で保有している東京商事株式会社の株式20株（１株の帳簿価額80円）を１株につき100円で売却し、代金は当店の当座預金口座に振り込まれた。**

有価証券を売却した場合、「有価証券」勘定（資産）の減少として処理します。また、帳簿価額より高く売却した場合、売却価額と帳簿価額の差額を「有価証券売却益」勘定（収益）として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当座預金	**2,000**	**有価証券**	**1,600**
		有価証券売却益	**400**

当座預金：@100×20株＝売却価額2,000
有価証券：@80×20株＝帳簿価額1,600
有価証券売却益：2,000－1,600＝400

（５）固定資産

試験対策問題２－18　**工場の用地のため土地100,000円を購入し、代金は登記料と買入手数料の合計2,000円とともに小切手を振り出して支払った。**

登記料及び買入手数料は固定資産の購入に関する付随費用ですので、固定資産の取得原価に含めるために「土地」勘定（資産）で処理します。また、小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
土地	**102,000**	**当座預金**	**102,000**

土地：100,000＋付随費用2,000＝102,000

試験対策問題２－19　**建物100,000円を購入し、代金は翌月末払いとした。また、不動産会社へ仲介手数料2,000円は現金で支払った。**

支払代金の未払について、商品の仕入以外は「未払金」勘定（負債）で処理します。また、仲介手数料は固定資産の購入に関する付随費用ですので、固定資産の取得原価に含めるために「建物」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	**102,000**	**未払金**	**100,000**
		現金	**2,000**

建物：100,000＋付随費用2,000＝102,000

試験対策問題２－20　**帳簿価額7,000円の備品を6,000円で売却し、代金は小切手で受け取り、直ちに当座預金に預け入れた。**

帳簿価額より安く売却した場合、売却価額と帳簿価額の差額を「固定資産売却損」勘定（費用）で処理します。また、小切手を受け取り、直ちに、当座預金に預け入れた場合、「現金」勘定（資産）でなく、「当座預金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**6,000**	**備品**	**7,000**
固定資産売却損	**1,000**		

固定資産売却損：帳簿価額7,000－売却価額6,000＝1,000

（６）貸倒引当金

試験対策問題２－21　**長崎商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金90,000円が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が100,000円ある。**

売掛金が貸し倒れたため、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。また、前期以前の売掛金に対して貸倒引当金を設定してあるので、「貸倒引当金」勘定（資産の評価勘定）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**90,000**	**売掛金**	**90,000**

試験対策問題２－22　**青森商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金90,000円が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が80,000円ある。**

売掛金が貸し倒れたため、「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。また、前期以前の売掛金に対して貸倒引当金を設定してあるので、「貸倒引当金」勘定（資産の評価勘定）の減少として処理します。貸倒引当金残高を上回る貸し倒れが生じた場合、差額を「貸倒損失」勘定（費用）として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	**80,000**	**売掛金**	**90,000**
貸倒損失	**10,000**		

（７）仮払金・仮受金

試験対策問題２－23　**出張中の従業員から当座預金口座に3,000円の振り込みがあったが、その内容は不明である。**

内容が不明であるため、一時的に「仮受金」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**3,000**	**仮受金**	**3,000**

試験対策問題２－24　**出張中の従業員から3,000円が当座預金口座に振り込まれ、仮受金として処理していたが、本日、売掛金の回収額であることが判明した。**

入金時に「仮受金」勘定（負債）で処理しているので、「仮受金」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮受金	**3,000**	**売掛金**	**3,000**

試験対策問題２－25　**従業員の出張にあたり、旅費の概算額として60,000円を現金で渡した。**

仮払時には「仮払金」勘定（資産）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮払金	**60,000**	**現金**	**60,000**

試験対策問題２－26　**従業員の出張にさいし、旅費の概算額として60,000円を仮払いしていたが、本日、従業員が帰店して精算を行い、残額1,000円を現金で受け取った。**

仮払時に「仮払金」勘定（資産）で処理しているので、精算時には「仮払金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**1,000**	**仮　　払　　金**	**60,000**
旅　　　　　費	**59,000**		

（８）資金の貸付・借入

①　貸付金

試験対策問題２－27　**取引先A店へ借用証書によって貸し付けていた10,000円の返済を受け、その利息250円とともに同店振り出しの小切手で受け取った。**

小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、貸付金の返済を受けたので「貸付金」勘定（資産）の減少として処理し、利息の受取は「受取利息」勘定（収益）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**10,250**	**貸　　付　　金**	**10,000**
		受　取　利　息	**250**

②　借入金

試験対策問題２－28　**取引先から借用証書によって40,000円を借り入れていたが、支払期限が到来したため、利息1,200円とともに現金で返済した。**

借入金を返済した場合、「借入金」勘定（負債）の減少として処理し、利息の支払は「支払利息」勘定（費用）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
借　　入　　金	**40,000**	**現　　　　　金**	**41,200**
支　払　利　息	**1,200**		

（９）純資産

試験対策問題２－29　損益勘定に記入された当期の収益合計は99,000円で、費用合計は69,000円であった。この差額を資本金へ振り替える。

「損益」勘定で算定した当期純利益の金額は、「損益」勘定から「資本金」勘定（純資産）へ振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
損　　　　益	**30,000**	**資　　本　　金**	**30,000**

損益：収益合計99,000－費用合計69,000＝30,000

試験対策問題２－30　事業主が、所得税の予定納税額第１期分30,000円を、店の現金で納付した。

事業主の所得税は事業主個人のお金で支払うべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**30,000**	**現　　　　金**	**30,000**

試験対策問題２－31　事業主が私用のため、店の現金10,000円を引き出した。

私用で使ったお金は事業主個人で負担すべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**10,000**	**現　　　　金**	**10,000**

試験対策問題２－32　事業主が私用のため、原価20,000円の商品を使用した。

私用で使った商品は事業主個人で負担すべきものなので、資本の引出として「引出金」勘定（純資産の評価勘定）で処理します。また、当該商品はもともと販売する目的で仕入れたため「仕入」勘定（費用）で処理していましたが、販売目的ではなくなったため、販売目的の仕入を取り消すために、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**20,000**	**仕　　　　入**	**20,000**

試験対策問題２－33　**事業規模を拡大するため、事業主が現金50,000円を追加元入れした。**

元手が増加しますので、「資本金」勘定（純資産）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　金	**50,000**	**資　本　金**	**50,000**

（10）その他

試験対策問題２－34　**従業員に対する給料80,000円から、所得税額8,000円を差し引いて、手取り額を現金で支払った。**

従業員の所得税額は「所得税預り金（または、預り金)」勘定（負債）の増加として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
給　料	**80,000**	**所得税預り金**	**8,000**
		現　金	**72,000**

試験対策問題２－35　**建物に関する１年分の火災保険料40,000円を現金で支払った。**

火災保険料は「保険料」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
保　険　料	**40,000**	**現　金**	**40,000**

試験対策問題２－36　**営業用店舗の固定資産税1,200円を現金で納付した。**

営業用店舗の固定資産税は、「租税公課」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
租　税　公　課	**1,200**	**現　金**	**1,200**

試験対策問題２－37　**得意先へ商品を43,200円（消費税3,200円を含む）で売り渡し、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜方式により、仮受消費税勘定を用いている。**

税抜方式では「売上」勘定（収益）は消費税の金額を控除した金額（税抜金額）で計上し、消費税は「仮受消費税」勘定（負債）で処理します。なお、「売掛金」勘定（資産）は消費税の金額を含んだ金額（税込金額）で計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**43,200**	**売上**	**40,000**
		仮受消費税	**3,200**

試験対策問題２－38　**商品54,000円（消費税4,000円を含む）を仕入れ、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜方式により、仮払消費税勘定を用いている。**

税抜方式では「仕入」勘定（費用）は消費税の金額を控除した金額（税抜金額）で計上し、消費税は「仮払消費税」勘定（資産）で処理します。なお、「買掛金」勘定（負債）は消費税の金額を含んだ金額（税込金額）で計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**50,000**	**買掛金**	**54,000**
仮払消費税	**4,000**		